

審査項目別運用表の見直しについて（お知らせ）

令和2年4月1日以降の契約に適用

工事成績評定における「審査項目別運用表」の見直しを行いました。見直した項目と概要は下記のとおりですが、詳細は審査項目別運用表の該当箇所を赤書きしています。

記

【 土木工事・営繕工事共通 】

創意工夫の見直し

- ・創意工夫で評価するものは、導入方法や期待される効果などが事前に施工計画書に記載され、期待されたとおりの効果が確認できたもののみを評価する。
- ・新技術活用（NETIS）の評価対象を改正し2項目に限定明示した。
インターネット上の「新技術情報提供システム」から「新技術概要説明情報」と「活用効果評価結果」を出力して施工計画書に添付すること。（別添参照）

法令遵守等の一部改正

- ・総合評価落札方式の技術提案が履行されなかった場合の減点数を改正するとともに、途中で技術者を変更する場合の取り扱いを追加。

【 土木工事のみ 】

ばらつき判断の見直し（別紙—4を改正）

- ・打点数5点以上をばらつき判定の対象とする。
- ・ばらつき判定の対象や条件を明示。

下水道工事の評価基準（品質、出来ばえ）を新規作成

- ・検査員評価の「品質」に下水道工事（開削、推進、シールド、管更生）を追加。
- ・検査員評価の「出来ばえ」に下水道工事を追加。

「施工プロセス」のチェックリスト

- ・施工体制台帳への下請け金額の記入を削除。


新技術概要説明情報

2020.3.4 現在

NETIS登録番号	CB-130007-VE
技術名称	ひび割れ補修浸透性エポキシ樹脂塗布工法
事後評価	事後評価済み技術 (2019/10/25)
受賞等	建設技術審査証明※
事前審査・事後評価	活用効果評価
技術の位置付け (有用な新技術)	推奨技術 準推奨技術 評価促進技術 活用促進技術
旧実施要領における 技術の位置付け	活用促進技術(旧) 設計比較対象技術 少実績優良技術
活用効果調査入力様式	-VE 活用効果調査は不要です。(フィールド提供型、テーマ設定型で活用する場合を除く。)
適用期間等	-VE評価：令和元年10月25日～ 活用促進技術 令和元年10月25日～

上記※印の情報と以下の情報は申請者の申請に基づき掲載しております。 申請情報の最終更新年月日：2019/10/25

副題	塗布・浸透型ひび割れ補修材アルファテック388
分類 1	コンクリート工 - その他
分類 2	
分類 3	
分類 4	
分類 5	
区分	工法

①何について何をやる技術なのか？

従来の塗布工法は、0.3mm以下のひび割れの補修が限界であったが、鉛直面で0.8mm以下、上向きで0.5mm以下のひび割れを、接着剤を塗布することで補修します。刷毛やローラーを用いて繰り返し塗り重ねることでひび割れに浸透し、接着します。表面張力の作用によって起こる毛細管現象を大きなひび割れにも発揮させ、また構造物補修時にも液ダレが起こらないよう、無溶剤材料の特徴を残しながら、配合や添加剤に工夫を行っています。

②従来はどのような技術で対応していたのか？

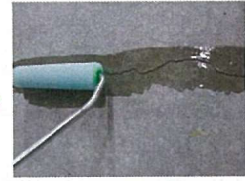
低圧注入器具を用いて、圧力をかけることによってひび割れ内に接着剤を注入し、ひび割れを補修していました。新技術は低圧注入とは異なり、目視により確認しながらの施工が可能のため、ひび割れ浸透状況の確認ができ、また圧力をかけることによるコンクリート表面の膨れがなくなります。

③公共工事のどこに適用できるのか？

コンクリート構造物のひび割れ補修に採用できます。



従来技術
【低圧注入工法】



新技術
【塗布・浸透型ひび割れ補修材
アルファテック 388】

従来技術と新技術の比較

新規性及び期待される効果

①どこに新規性があるのか？(従来技術と比較して何を改善したのか?)

ひび割れを補修する際、ひび割れ表面だけでなくひび割れの奥まで補修する場合は、低圧又は高圧で樹脂を注入しなければなりませんでしたが、毛細管現象によって塗布するだけでひび割れに浸透する接着剤としました。

②期待される効果は？(新技術活用のメリットは?)

低圧注入器具の費用と設置時間を省くことができ、工期の短縮、施工費の削減や、廃棄物の削減に貢献できます。

適用条件

①自然条件

5℃以上で施工

②現場条件

気中、湿潤面で施工可能

③技術提供可能地域

制限なし

④関係法令等

消防法、危険物第4類第3石油類

※指定数量2000リットル以上を貯蔵し、又は取り扱う場合には、許可を受けた施設において政令で定める技術上の基準に従って行わなければなりません

適用範囲

①適用可能な範囲

鉛直面でひび割れ幅0.2mm以上0.8mm以下、上向きで0.2mm以上0.5mm以下

②特に効果の高い適用範囲

コンクリート構造物のひび割れ

③適用できない範囲

鉛直面で0.8mm以上、上向きで0.5mm以上のひび割れ

雨天時に、施工面に雨が掛かる場合(材料が流されるため)

ひび割れ内部から水が流出している場合

ひび割れ内部に水がたまっている場合(エア等で水を除去すれば施工可)

④適用にあたり、関係する基準およびその引用元

NEXCO構造物施工管理要領表3-7-2、構造物施工管理要領3-11-5

留意事項**①設計時**

ひび割れ内部が水没及び水の流れがある場合は不適

②施工時

保護メガネ・手袋等保護具を着用し、直接材料に触れないこと

可能な範囲で、ひび割れ内部の埃・汚れを除去すること

③維持管理等

特になし

④その他

特になし

活用効果評価結果

中部地方整備局 / 新技術活用評価会議

令和元年度		省人化、経済性の向上、作業環境の向上																																	
N E T I S 情 報	開発目標	省人化、経済性の向上、作業環境の向上																																	
	新技術登録番号	CB-130007-VE	区分	工法	有用な技術の位置づけ 活用促進技術																														
	分類	コンクリート工 - その他																																	
	新技術名	ひび割れ補修浸透性エポキシ樹脂塗布工法																																	
	比較する従来技術(従来工法)	低圧注入工法																																	
	新技術の概要及び特徴	ひび割れの奥まで補修する際に低圧注入器具を用いて補修材を注入していたのに対し、塗布だけでひび割れに補修材が浸透する工法です。浸透性エポキシ樹脂接着剤「アルファテック388」を繰り返し塗布することで毛細管現象によってひび割れ内部にまで浸透します。																																	
活用効果評価	所見	【優れていた所】 ・注入器具を設置しないため、準備工程が短縮できるとともに、刷毛やローラーで塗布すればよいため熟練技術を必要とせず、施工性の向上が図られている。																																	
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	活用調査及び活用効果評価を継続する技術としての選定要件にあてはまらないため継続調査は実施しない。 よって、情報種別記号「-VE」とする。																																	
	留意事項	*該当なし																																	
	活用効果調査表における改良点及び要望	*該当なし																																	
	対象工事	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>橋梁下部工事</td> <td>(従来技術)</td> <td>低圧注入工法</td> <td>)</td> <td>施工者希望型(契約後提案)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>橋梁補修工事</td> <td>(従来技術)</td> <td>低圧注入工法</td> <td>)</td> <td>施工者希望型(契約後提案)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>橋梁補強補修工事</td> <td>(従来技術)</td> <td>低圧注入工法</td> <td>)</td> <td>施工者希望型(契約後提案)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>橋梁補修工事</td> <td>(従来技術)</td> <td>低圧注入工法</td> <td>)</td> <td>施工者希望型(契約後提案)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>橋梁補修工事</td> <td>(従来技術)</td> <td>低圧注入工法</td> <td>)</td> <td>発注者指定型</td> </tr> </table>				1	橋梁下部工事	(従来技術)	低圧注入工法)	施工者希望型(契約後提案)	2	橋梁補修工事	(従来技術)	低圧注入工法)	施工者希望型(契約後提案)	3	橋梁補強補修工事	(従来技術)	低圧注入工法)	施工者希望型(契約後提案)	4	橋梁補修工事	(従来技術)	低圧注入工法)	施工者希望型(契約後提案)	5	橋梁補修工事	(従来技術)	低圧注入工法)	発注者指定型
1	橋梁下部工事	(従来技術)	低圧注入工法)	施工者希望型(契約後提案)																														
2	橋梁補修工事	(従来技術)	低圧注入工法)	施工者希望型(契約後提案)																														
3	橋梁補強補修工事	(従来技術)	低圧注入工法)	施工者希望型(契約後提案)																														
4	橋梁補修工事	(従来技術)	低圧注入工法)	施工者希望型(契約後提案)																														
5	橋梁補修工事	(従来技術)	低圧注入工法)	発注者指定型																														
活用効果調査結果	参考																																		
	活用効果調査結果	ケース番号および年度	1	2	3	4	5	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)																										
	項目	H27	H27	H29	H30	H30																													
施工時評価	経済性	C	B	B	A	B		B	C																										
	工程	A	A	B	B	B		B	C																										
	品質・出来形	C	C	B	C	B		C	C																										
	安全性	C	C	C	C	C		C	C																										
	施工性	B	B	B	B	B		B	C																										
	環境	B	C	B	B	B		B	C																										
	その他																																		
	総合評価点	B	B	B	B	B		B																											
	今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後も是非活用したい		活用を検討したい		場合によっては活用することもある		技術の改良を強く望む																											
		60%		20%		20%		0%																											
								各項目における判定																											
								A 従来技術より極めて優れる																											
								B 従来技術より優れる																											
								C 従来技術と同等																											
								D 従来技術より劣る																											
	追跡調査の必要性	不要																																	
	追跡調査	-																																	